

NIE で新聞に親しもう

～読解表現力を高めるN I E～

三木市立別所小学校 校長 大北 由美
教諭 下田 広行

1. はじめに

本校の研究テーマは、「認め合い、磨き合い、ともに成長する子をめざして ～説明的文章の指導を通して、読解表現力を高める授業をつくる～」である。6年生を対象に、まず新聞についてのアンケート(4月29日実施)を実施した。その結果によれば、「新聞を毎日読んでいる・ときどき読む」と答えた児童は、約40%であった。また、「どのような記事が気になるか」については、テレビ欄やスポーツ欄が一番多く、42%であった。一方、社会欄や政治欄は一番少なく、17%であった。このことから、新聞に親しんでいる児童が少ないことや記事を読む内容に偏りがあることが分かった。こういった実態から、まずは、新聞に親しませることが大切であると考えた。その中で、研究テーマに迫る学習に取り組んだ。

2. 実践の概要

① 新聞ウォッチング

新聞に親しませる具体的な方策として、家庭学習で「新聞ウォッチング」に取り組ませた。「新聞ウォッチング」とは、自分の気に入った記事を切り取り、なぜその記事を選んだのかという理由を書いたり、友達や家族にその記事についての意見を聞いたり、自分の考えを書いたりする活動である。また、書いた内容に基づき、朝の会でスピーチをし、聞いている人は感想を伝える活動をしている。

この学習を通して、新聞に親しむ素地を養うことができたように感じる。また、新聞から情報を読み取る力、インタビュー

一する力、発表する力を養成できた。さらに、発表を聞く側も興味をもって新聞記事の内容を聞くことができた。



【①新聞ウォッチング】

② 気になる社会問題を基に、意見文を書こう

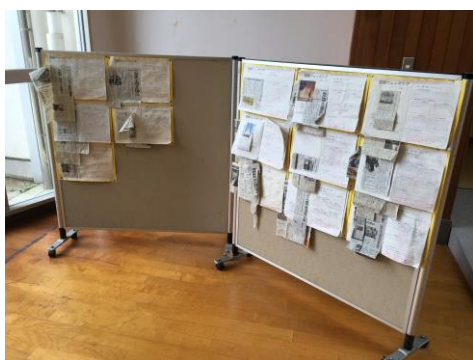
国語科「平和のとりでを築く」の単元のゴール設定を「別所町公民館に新聞記事に対する意見文を展示して、たくさんの人に自分の考えを知ってもらおう!」としていたため、児童は高いモチベーションで、意見文を書く学習に臨むことができていた。第二次で、意見文の書き方について学習をし、学んだことを生かして「戦争と平和」のテーマについて意見文を書いた。また、第三次では、自分の興味のある社会問題を新聞記事の中から選んでいたため、主体的に調べ学習をして意見文を書いていた。



【②別所町公民館に掲示された成果物】

③ コンクールへの応募

国語科の学習で書いた意見文を「ひょうご新聞感想文コンクール」に6年生全員、成果物で終わるのではなく、コンクールへの応募も目的に据えていたので、最後までモチベーションを落とすことなく取り組むことができた。



【③コンクールに応募した作品】

④ 新聞の読み比べ

図書スペースの一角に、その日の新聞を並べていつでも見られるようにした。子どもたちは、休み時間に進んで読んでいた。その時に、ただ新聞を読むだけではなく、「いろいろな新聞の1面を読み比べよう」と伝えた。新聞には、同じニュースがあっても記者によって写真の使い方や記事の書き方には違いがあるということを授業の中で学習した。



【④新聞の読み比べ】

⑤ 新聞社の記者派遣

神戸新聞の大島光貴・三木支局長に来ていただいて、「新聞記事の書き方」や「新聞記者の一日」について教えていただいた。その中でも特に児童の印象に残ったのは取材メモで、一番早いと2日でノートがなくなってしまうということや、人とのつながりを大切にすることが次の仕事につながってくるといった話である。教科書には載っていない生の声を子どもたちは興味津々で聞くことができた。



【⑤大島光貴・三木支局長の話】

3. 児童の感想（12月18日実施）

- ・N I Eをすることで、今世界や日本では何が起きているのか、どのような社会問題が起きているのかをいろいろと知ることができたのでよかった。
- ・これまで番組欄ばかり見ていたが、政治欄や地域欄を見るようになり、見る内容の幅が広がってきた。

- ・新聞ウォッチングをすることで、友達や家族の意見を聞くことができ、一つの新聞でも様々な見方があることが分かって、とても面白かった。
- ・これまで新聞を全く読まなかったけど、新聞に興味を持つようになった。新聞を読むことで社会を身近に感じることができるようになった。
- ・新聞には、難しい言葉や漢字がたくさんあったが、それを調べたりするうちに、文字を読むスピードが速くなった。また、新聞を読んでいるうちに、文章の内容を読み取る力も身に付いたように思う。
- ・新聞を読むことで、「自分だったらこうする」「自分だったらこう考える」など、自分がその立場だったらと考えるようになった。
- ・新聞ウォッチングをすることで、家族や友達との会話も増え、絆が深まったように思う。
- ・新聞記事によって、写真や内容が違っていて読み比べてみると面白かった。また、新聞記者によって同じ内容でも書き方や表現の仕方が違っているのも面白かった。
- ・自分の一番身近な地域欄が一番興味を引いた。地元でどのような行事が行われているのかが気になるからだ。別所小学校の音楽会が記事になっているの

は、自分たちも出ていたし、とてもうれしかった。

4. 成果と課題 (◎と△)

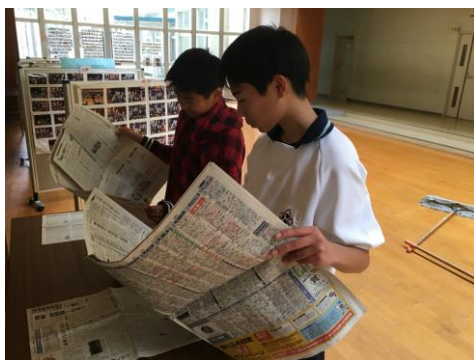
①成果

- ◎ 事後アンケート「新聞記事を見たり、ニュースを見たりする機会が6年生になる前より増えたか？」といった質問では、約90%が増えたと回答した。このことから、新聞記事を通して、社会問題に関心を持つようになった児童が増えていることが分かる。
- ◎ 事後アンケート「保護者と新聞記事や社会問題について会話をする機会が増えたか？」といった質問では、約60%の児童が増えたと回答した。このことから、保護者と社会問題について話をする機会につながっていることが分かる。
- ◎ 事後アンケート「どのような欄をよく見るか？」といった質問では、社会欄が一番多く、約72%の児童が見ると答えた。また、意外だったのは、約50%の地域欄で二番目に多かった。地元でどのようなことが起きているのか興味を持つ児童が増えたことが分かる。
- ◎ 休み時間の様子を見ると、アメリカの大統領が誰になるのか、韓国の大統領がどうなるのかなど、外国にも目を向けて話をしている様子が多く見られた。

- ◎ 4月と12月のアンケート結果を比べると、新聞を読む機会が増え、読む記事も地域欄や社会欄などを読む児童が増えた。新聞に親しむ児童が増え、保護者の方々からも感謝の声をたくさん聞くことができた。

②課題

- △ 新聞ウォッチング以外に、新聞をあまり授業で活用できなかった。
- △ どの教科と新聞を関連付けるのか、教師側の深い教材研究が必要であると感じた。
- △ やはり小学生新聞は手に取りやすいようで、大人向けの新聞に抵抗のある児童もいた。大人向けの新聞でも読めるような仕掛けや工夫が必要であった。
- △ 単元構想をきちんと練った上で、継続して学習を進めていく必要があった。
- △ 新聞の中には、難しい漢字や内容があるので、教師側がきちんと説明できる知識が必要であると感じた。



【⑥新聞に親しむ児童】

5. おわりに

本年度、子どもたちは初めてNIEに取り組み、学習を進めた。実践していく中で、子どもたちは新聞に親しむことができ、新聞に興味を持ち始めた。

新聞ウォッチングで、新聞に親しむ素地を養い、土台を作ることが大きな成果であった。子どもたちから、「こんな記事があったよ」「先生は、この記事についてどう思う？」など、記事に対して関心を持つようになり、主体的に学ぶ姿勢が身に付いていった。また、徐々に分からない漢字や言葉の意味を辞書で調べるようになり、語彙力に幅が出てきた。さらに、家族や友人と記事について交流する場をつくったことで社会問題について考えを深めるという言語活動の機会をつくることができた。

児童の感想にもあるように、NIEを通して、本校の研究テーマである「認め合い、磨き合い、ともに成長する子をめざして ～説明的文章の指導を通して、読解表現力を高める授業をつくる～」ということについて、少しは迫れたのではないかと考える。

今後、さらに教材研究を重ね、生きた教材である新聞をどの学年でも活用できるカリキュラム開発や指導方法について研究していきたい。